

季刊・オーディオ アクセサリー

Audio Accessory

超絶のエントリースピーカー× “最強の30万円”セット

スクランブルテスト & システムプラン



特別付録

HD Impression
サンプラー CD

藤田恵美 ほか

重点アクセサリー研究

**アースを
征する!**



2019 SPRING **172**

弩級スピーカーシステムの バイアンプドライブに挑戦

Text by 井上千岳 Chitake Inoue / Photo by 田代法生

ACCUSTIC ARTS

AMP Ⅲ

パワーアンプ

¥3,000,000(税別)



Specifications

<TUBE PREAMP Ⅱ-MK2> ●最大利得：4.0倍／+12dB ●L&Rch信号0差：0.2dB (0dB～-40dB) ●入力インピーダンス：XLR 50k Ω ×2、RCA 50k Ω ●出力インピーダンス：XLR 34 Ω ×2、RCA 34 Ω ●内部歪：0.0065% with 4.0Veff on 10k Ω (60Hz／7kHz 4:1) ●高調波歪 (THD+N)：0.0022% with 1.0 Veff on 10k Ω (22Hz～30kHz) ●SN比：-90dB (ref.500mV／potentiometer turned to left) ●真空管：12AX7 WA、ECC83、7025 ●サイズ：482W×100H×375Dmm ●質量：12kg

<AMP Ⅱ-MK3> ●電圧利得：31.0dB ●電源トランス：2,200VA (W) ●電源キャパシター：160,000 μ F ●入力インピーダンス：バランス 20k Ω ×2、アンバランス 100k Ω ●出力 (THD+N=0.1%)：650W／ch (2 Ω)、425W／ch (4 Ω)、260W／ch (8 Ω) ●立ち上がり、下がり時間 (方形波20kHz,12Vpp)：3.1 μ s (4 Ω) ●クロストーク：109dB (1kHz) ●高調波歪 (THD+N)：0.0010% (4 Ω 、10W) ●SN比：-103dB (ref.6.325V) ●サイズ：482W×350H×430Dmm ●質量：55kg

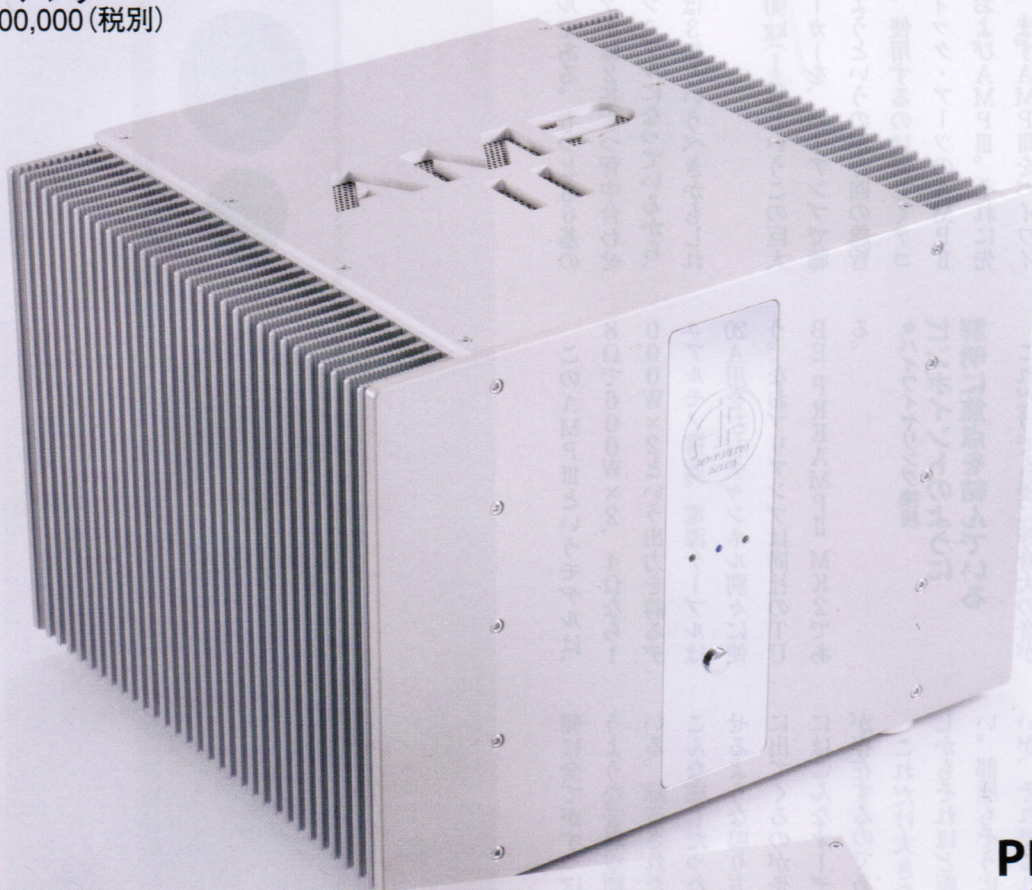
<AMP Ⅲ> ●電圧利得：25.0 dB ●電源トランス：3,200VA (W) ●電源キャパシター：240,000 μ F ●入力インピーダンス：バランス 20k Ω ×2 ●出力 (THD+N=0.1%)：1,000W／ch (4 Ω)、600W／ch (8 Ω) ●最小スピーカー負荷インピーダンス：4 Ω ●立ち上がり、下がり時間 (方形波20kHz,12Vpp)：3.1 μ s (4 Ω) ●クロストーク：109dB (1kHz) ●高調波歪 (THD+N)：0.008% (4 Ω 、10W) ●SN比：-103 dB (ref. 6.325V) ●待機電力：330W ●サイズ：482W×350H×430Dmm ●質量：60kg ●取り扱い：(株) ハイ・ファイ・ジャパン

精緻な製品作りで知られるドイツのハイエンドオーディオブランドACCUSTIC ARTS（アコースティック・アーツ）。ここでは、同ブランドのスピーカー CONCERTOのバイアンプ駆動に挑戦する。CONCERTOは6基のウーファーユニットを搭載した弩級モデル。ドライブするアンプには高い駆動力が必要である。ここで使用するパワーアンプは、REFERENCE シリーズのAMP II-MK3とAMP III。果たして2台のアンプは弩級機をドライブできるのか

AMP II-MK3

パワーアンプ

¥2,400,000(税別)



TUBE PREAMP II-MK2

プリアンプ

¥1,900,000(税別)



プロ用モニターSPの 開発が出発点のブランド

アコースティック・アーツは1996年の設立だが、その最初の製品はプロ用のモニタースピーカーだった。PROLINE MSIというブックシェルフ型で、同社では録音も行っているため、そのためのモニターとして開発されたのである。

ここで聴こうとしているCONCERTOはその流れを汲むフラッグシップで、ウーファー6基を含む8スピーカー3ウェイの巨大

なモデルである。もともと6基のウーファーは2基ずつ背中合わせでブックシェルフになっているから、正しくは3組というべきかもしれない。

自重90kg(1台)というこの巨大なスピーカーを、バイアンプで聴いてみようというのが今回の趣旨である。使用するのと同じくアコースティック・アーツのAMP II MK3およびAMP III。それに先立って、まずAMP IIIをバイワイヤにして聴いてみることにする。立ち位置の確認ということである。

●バイワイヤリング接続 ピンポイントのように 鮮明に焦点を結んでいる

これだけでも優に等身大の音がする。バロックなど楽器も少ないシナイミズムもそう広いわけではないので、スピーカーの向こう

このAMP IIIというモデルは、8Ωで600W×2、4Ωなら1000W×2という出力を誇るデュアルモノ構成。電源ケーブルは20A用を左右チャンネル別々に使う。なおプリアンプは同社のTUBEPREAMP II MK2である。

側に全てがすっぽり収まってしまいうような音場空間ができ上がっている。録音された現場もちょうどこんな感じだったのだろうと思われるような鳴り方が、いとも簡単にに出てくるのが恐ろしい。世の中にはこんなオーディオというものが存在するのである。

これだけ大きなスピーカーで、しかもそれほど距離を取っていない。部屋もそう広大なわけではないが、それでこれだけまとまった鳴り方をするということにも感心させられる。普通は低音が飽和してしまつてピントが合わなくなる

ものだが、そんなことが少しもないのはウーファーの制動がよく効いているからにはかならない。ブックシェルフ動作がまず第一だが、アンプのダンピング・ファクターが高いことも効いているはずだ。バロックでは低音はそこまで分らないが、ピアノになると低音部の明快さが本領を発揮する。タッチがくつきりとにじまず、余韻がとりわけ澄み切つて長い。ソースにはそれだけの音が入っているのだ。システムが良くなればなるほど、それが出てくる。そしてこれだけ大型でありながら、ステー



CONCERTO スピーカーシステム ¥2,600,000 (ペア・税別)

Specifications

●型式:8ユニット・バスレフ・フロア型スピーカー(反射型サブウーファーを内蔵)
●推奨アンプ出力:200W(4Ω)以上●公称インピーダンス:4Ω●ベアマッチング:
±0.25dB●サイズ:280W×1655H×470Dmm●質量:90kg●取り扱い:(株)
ハイ・ファイ・ジャパン

ジがピンポイントのように鮮明に焦点を結んでいる。残響の出方によって、そこまでの距離感がはっきり感じられたときは、ちよつとゾクツとする思いだった。

マドリガルはさらに距離感が明確で、声楽の一人一人の位置感がもう指で差せそうなくらいはつきり分かる。見えると言っている。奥行きは遠近も明瞭で、等身大の音が正確そのものに鳴っている。

オーケストラもホールにいるような実在感だ。管弦楽全体を包含して、さらにその左右にも空間がちゃんとある。ホール全体がスピーカーの周辺まで来ているのである。そして楽器ひとつひとつが明確な輪郭と音色を持つ。解像度の余裕である。

●バイアンプでドライブ 音ひとつひとつの 実在感が違う

さてそれではAMP II MK3とともに、バイアンプで鳴らしてみよう。こちらはもう少しモデレートだが、260W×2/8Ωという出力は決して低くはない。それとダンピング・ファクター直線化とあって、全帯域で最適なダンピング・ファクターに調整する機能も装備している。割り当てはこちらがハイ側である。

初めに言ってしまうと、これはもう別の世界だ。本質的に音が変わるわけではないが、音ひとつひとつの実在感が違うのだ。微小レベルのエネルギーが増すのか、あるいは全体のダイナミズムが広がるのか、いかにもそこで鳴っているという現実感がある。

パロクではフォーカスが引き締まってくるせいか、4台の楽器が本当にその位置にいるのが見えるようだ。そしてそこから前方だけでなく、周囲全体に音が広がってゆく。この全方位的な出方がシングルアンプではできなかったところで、こうなると生とどこが違うのかというレベルである。

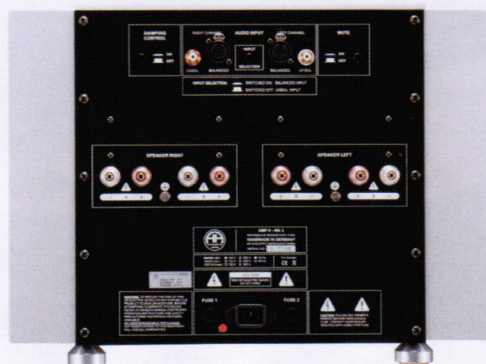
ピアノは比較的近くに出るが、やはり鍵盤が見えるのだ。音の質感や音色、余韻などの正確さは言うまでもない。これはそのまま目の前でピアノを弾いているのと同じである。

オーケストラはどうかというところ、ピアノと違ってもつと奥へ行く。録音の違いである。それがつきり出る。そうして弦楽器群とフルート、オーボエ、金管という配置がそのまま出てくる。遠近の距離感も含めて、ホールの音そのもののものだ。

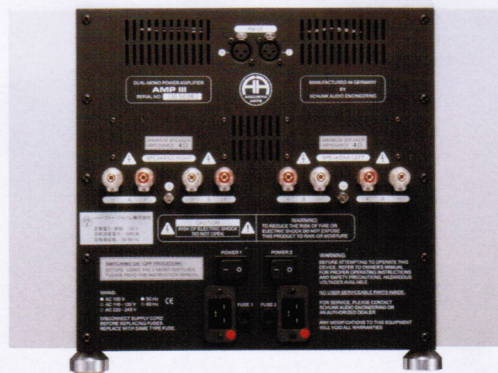
ダイナミックレンジは無際限に



TUBE PREAMP II-MK2はXLR×3とRCA×2の入力端子を装備。ライン出力端子はXLR×2とRCA×1。今回は2系統のXLR出力を用いて試聴した



AMP II-MK3はRCAとXLR各1系統の入力端子を装備。スピーカー出力端子は2系統。ダンピングコントロールスイッチがリアパネルに配置されている



AMP IIIの入力端子はXLRのみ。スピーカー出力端子は2系統。チャンネルごとにメインスイッチと電源ケーブルのインレットが設けられている。電源ケーブルは20A仕様

コーラスと楽器群の位置感が こんなにくつきり感じ取れるものか

近く、その余裕の中でかえって弱音のダイナミズムも明瞭になる。低音弦の生きて動くような実在感、こうでなければ本物とは言えない。これが本当のスケール感というものであるか。

順序が逆になるがマドリガルでも、この音楽はこういうものだったのかとあらためて納得する。やはり本物そのものだという印象が強いのである。

普段はちょっと聴けないような世界だが、こういうものもあるのだとつくづく感じ入ったのである。ところで下世話なことだが、このスピーカーの価格をちょっと見てもらいたい。大型のフラッグシップ機が1000万円を越えることも珍しくない昨今、これはかなりのお値打ちということができないのではないかと思うのだが。



Finest Music Components

Handmade in Germany

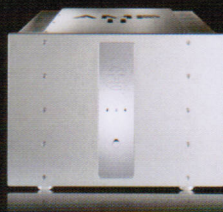
フルラインアップまで拡大したアコースティック・アーツのリファレンスラインを
最上の組み合わせで実演！

ダイナミックオーディオでご試聴いただけます。

DYNAMIC AUDIO

7F

AMP III
TUBE PREAMP II
TUBE DAC II
DRIVE II
RACK II



「しなやかな切れ味」

DYNAMIC AUDIO

6F

MONO III + BASE
TUBE PREAMP II
TUBE DAC II
TUBE PHONO II
DRIVE II



「意外な温もり」

DYNAMIC AUDIO

4F

AMP III
TUBE PREAMP II
PLAYER II
PLAYER ES



「やさしい音」

DYNAMIC AUDIO

**Trade
Center**

POWER I
AMP III
TUBE DAC I
PLAYER II
PLAYER ES



「ストレートな存在感」

株式会社 ハイ・ファイ・ジャパン

〒102-0075 東京都千代田区三番町1-8

tel: 03-3288-5231 fax: 03-3288-5233

www.accusticarts.com / www.hifijapan.co.jp